

口演 19 名古屋市における健康寿命の地域格差とその関連要因

ひらみつよしみち

○平光良充（名古屋市衛生研究所）

長沼裕子、小澤みずほ（名古屋市健康福祉局医療福祉課）

【要旨】

本市各区を対象として、健康寿命と社会指標との間の地域相関研究を行った。その結果、男女ともに健康寿命との間に有意な相関がみられた社会指標は、肥満者割合、歩行習慣がある人の割合などであった。

【目的】

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」において健康寿命の延伸が目標に掲げられており、そのアプローチ方法の一つとして「地域格差の解消」が挙げられている。本市においても健康寿命の地域格差が存在しており、地域格差を解消させることは本市の課題の一つとなっている。そこで、本市の健康寿命に地域格差が生じている原因を明らかにすることを目的に、健康寿命と各種社会指標との関連を分析したので報告する。

【方法】

1. 使用したデータ

1-1. 健康寿命

区別の健康寿命は、『健康寿命の算定方法の指針』（厚労科研費研究班）に従い、要介護2以上を不健康状態とみなす方法で算出した。死亡率は2019年～2021年の3年間、要介護2以上者割合は2020年の数値を使用した。

1-2. 社会指標

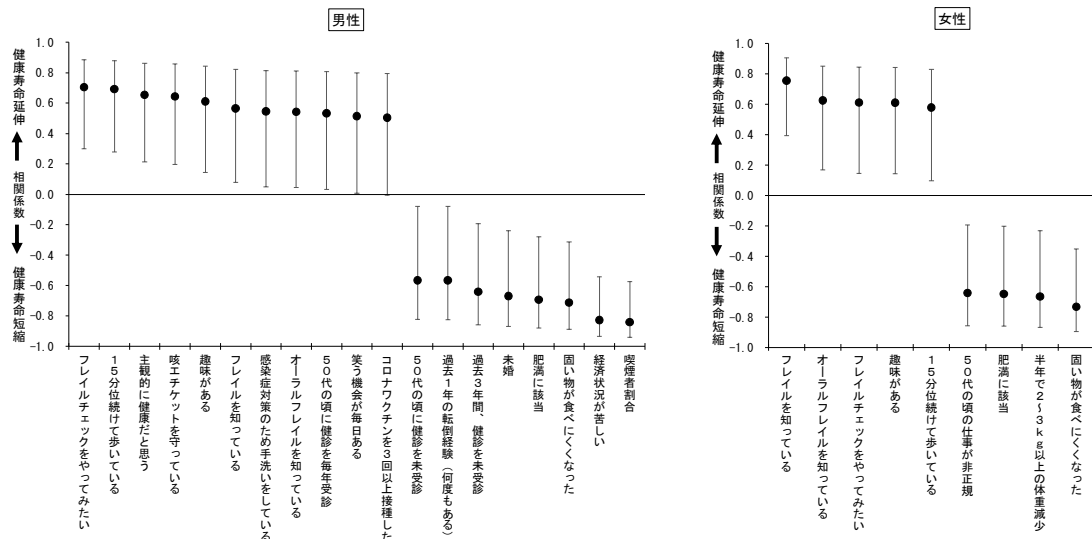
社会指標には、65歳以上の市民を対象とした質問紙調査『2022年度健康と暮らしの調査』の中から、先行研究を参考に、健康寿命と関連があると考えられる項目を抜粋して使用した。使用した社会指標は、主観的健康感、口腔状態、婚姻状態、喫煙習慣、歩行習慣、趣味の有無、笑う頻度などである。各区の年齢構成の違いによる影響を除くため、すべての社会指標は間接法による年齢調整を行った。

2. 統計解析

健康寿命と各種社会指標との関連について男女別に Pearson の積率相関係数を算出した。統計処理には SPSS Statistics 29 を使用し、有意水準は両側 5% とした。

【結果】

健康寿命と各種社会指標の相関係数を下図に示した。紙面の都合により、統計学的に有意であった社会指標のみを抜粋して掲載した。男女とも健康寿命と有意な正の相関がみられた社会指標は、「フレイルを知っている人の割合」「オーラルフレイルを知っている人の割合」「フレイルチェックをやってみたい人の割合」「15分位続けて歩いている人の割合」「趣味がある人の割合」であった。反対に、男女とも有意な負の相関がみられた社会指標は、「固い物が食べにくくなった人の割合」「肥満者割合」であった。



【結論】

本市の健康寿命の地域格差は、肥満者割合、歩行習慣がある人の割合、咀嚼能力が低下している人の割合、趣味がある人の割合などが関連して生じていることが示唆された。今後は、これらの社会指標を改善させられるような介入を市民（特に健康寿命が短い地域の市民）に対して行うことで、市内の健康格差を解消させられるとともに、全市的な健康寿命の延伸を図れる可能性が考えられる。